しずおか 統計ナビ

発行日/2006.10.18（第19号）
発行者/静岡県生活文化部「しずおか統計ナビ」編集局
TEL054-221-2240,2245　e-tokei@pref.shizuoka.lg.jp

日本初の近代的人口調査、それは静岡で始まった！

統計の日に想う　今日10月18日は「統計の日」です。この日は、明治政府が「府県物産表」に関する太政官布告を発した日、明治3年10月18日（太陰暦で9月24日を太陽暦に換算）を意味しています。実はその少し前、県内の駿府、沼津、原、清水港の周辺では、幕臣「杉亨二（すぎ・こうじ）」（写真）により、わが国初の近代的人口調査が行われていました。第1回国勢調査の実施（大正9年10月1日）に先駆けること、実に50年も前のことです。今回は、この静岡の地が、わが国近代統計の確立に果たした歴史的役割を一緒に考えてみます。

（統計調査支援活動協議会ＨＰ）

もう一つの明治維新　わが国「近代統計の祖」と言われる杉亨二（当時41歳）が妻子6人とともに、駿河に移ってきたのは明治元年12月のことでした。彼は、沼津兵学校の教官などを務めながらも、明治維新後の近代化のためには人口調査が必要と考え、明治3年7月に明治政府から出仕を命ぜられるまでの約1年半の間、駿河（現静岡市）、沼津、原（現沼津市）、そして清水港（旧清水市）周辺で、今の世帯票にあたる「家別票」を配布し調査するといった形で「駿河国人別調」（人口調査）の作成にあたりました。言うなれば、もう一つの明治維新がこの静岡の地で繰り広げられていたのです。

しかし・・・　杉亨二が完成を目指した「駿河国人別調」は、結局完成しませんでした。静岡藩重役の妨害「封土人民奉還の後であるから、朝廷で為さらぬ事に当藩で斯様な調べをするのは宜しく無い」により、沼津と原の分が集計されただけでした。とは言うものの、この「駿河国人別調」が明治12年の「甲斐国現在人別調」（政府実施の国勢調査の試験調査と言うべきもの）へと繋がり、大正9年の第1回国勢調査に至ったわけですから、私たちは胸を張って言えます。「日本の人口調査は静岡で始まった！」と。

「テスト調査は静岡でしょ！」の意味

時は流れ、杉亨二が人別調べに奔走した静岡は、今違った意味で「調査のホット・スポット」になっています。それは、新製品を販売する前に行う市場調査（テスト・マーケティング）地域に静岡が選ばれることが多いということです。

その理由として、（財）静岡総合研究機構の調査結果では、①代表性（日本の縮図としての特徴あり）、②独立性（独立性の高い商圏やメディアあり）、③調査しやすい流通・販売促進の管理能力（東京本社に近い）を挙げています。―――「静岡には何でもある」こう言ったら少し言いすぎですか？

県ＨＰ「静岡呉服町通り」

参考資料；（財）日本統計協会企画制作「統計局統計資料館パンフレット」、同協会編集・発行/伊藤廣一著「統計歴史散歩」、（財）静岡総合研究機構「テスト・マーケティングから見た静岡県の特性（主任研究員・影山敦彦）」等